

宮古島市教育委員会 様

拝啓

東京では、寒さの中、黄水仙の花もほころび春の訪れの兆しを感じる時節になりました。突然にお手紙を差し上げる非礼をお許してください。

私たちは、東京西郊、多摩市にあります多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校の高校1年生です。東京都にある180校余の私立高校の中でも、1学年男女120名足らずのもっとも小さな共学中高一貫校です。昨春、校内で話し合い、修学旅行先をこれまでの瀬戸内、九州・沖縄方面へのグループに分けた分散型修学旅行から、先島諸島に変更したところで、(宮古島と石垣島、西表島の3ヶ所の分散型)。修学旅行は、日程調整に苦労しながらも来年の1月上旬に決め、昨年9月から約2週間に1回程度で『月ぬ美しゅ』と題する修学旅行Newsを校長以下、学年教員で発行し、まだ見ぬ先島諸島地方についての事前学習と想いを熟くしています。

さて、こうした中、テレビ・新聞報道で、宮古島の皆さんが新型コロナウイルス感染症による大変な災禍に見舞われていることを知りました。飛沫・接触感染を主体とするこの感染症は未だ全容がわからず、どんなに注意しても完全に防ぐことが困難なもどかしさがあるでしょう。市長様をはじめ、保健所や関係部署、とりわけ医療関係者、教育関係者など皆様のご苦労は想像を超える大変さだとお察しいたします。また、小中学校の生徒の方々は、突然の休校で動揺も大きいことだと思います。

そうした皆様に対して、私たちは何の力も策もありませんが、校内で相談し、励ましの寄せ書きを書いて関係機関の皆様にお届けしようということになりました。きつとご対応に追われ、それどころではない忙しさではないかと思えます。ただ、修学旅行をご縁に、私たちの気持ちをお酌み取りいただけましたら幸いです。想像以上のご困難に立ち向かい、ご苦労かと思えますが、どうかお気を落とされることなく、新型コロナウイルスに打ち勝ち、前に向かって進まれることを切に願っております。

来年1月、高校1年生120名足らずの生徒のうち、30名余りの希望者が宮古島を訪問させていただきます。その際に、元気で明るい住民の皆様にお目にかかれることができますよう、楽しみにしております。

敬具

令和3(2021)年1月吉日

多摩大学附属^{かじり ちや}聖ヶ丘中学高等学校
校長 石飛 一吉
高校1年(33期生)一同